

回	ご意見（要約）
令和元年度 第1回	家庭系ごみと事業系ごみは明確に分けて、それぞれに対しての施策が必要ではないか。
	現計画では事業系ごみも1人1日あたりの排出量に含まれているが、おそらく昼間に人が入ってきて、ごみを出した後に帰っていくので市民1人1日あたりの排出量というのは違和感がある。
	リチウムイオン電池が原因で、全国各地で火災が発生しているという話を聞く。分別を進めていく必要があるのではないか。

回	ご意見（要約）
令和2年度 第1回	どこの市もグリーン購入を掲げているが、リサイクル製品は浸透していない。もっと税金を投入してコストメリットを出させる等しないと浸透しないのでは。
	水銀使用製品（乾電池・蛍光管・ボタン電池）が家庭ごみと一緒に捨てられているのを目にする。広報啓発が必要ではないか。
	集団回収（古紙類）について。奨励金でリサイクル推進は良いと思うが、今後中国が紙・金属のスクラップを引き取らなくなると売却費は出ず、全て税金対応を考えないといけなくなる。
	コロナ禍において生産者が学校や外食業者に食材を届けられない事態になり、多くの生産物が途方に暮れている報道を目にした。このような事態を防ぐためにも何か解決策を考える必要があるのではないか。
	食べられる食器が注目されているので、活用してみてもどうか。
	家庭ごみの中に繊維類が多く含まれているが、自宅にある繊維類からマスクを作製したり、再利用できるものを紹介するような啓発も必要ではないか。
	災害廃棄物に関しては、庁舎内の他部署との調整しながら策定を進められる方が実効性は高い。災害時に設ける一時的な仮置き場では、他部署からの応援が必要で、分別設置ができた方が処理を早く進めることができる。他部署との調整を進めながら決めていくような文言がある方がよいように思う。

回	ご意見（要約）
令和2年度 第2回	SDGsの話で「作る責任」や「使う責任」など、今回の基本計画が総合計画や環境基本計画にも関連して作成されるということで、こういう社会に東大阪をしていきたいという点でSDGsは必要ではないか。
	前計画では、環境教育を重点プロジェクトにあげており、今回は重点プロジェクトに挙げていない。ここはすごく根幹の部分な気がして教育はずっと根本的なところをやらないと、大人だけでこういうことをしたところで、広まっていけないと思う。
	新工場はどのような工場にしていきます、といったことをわかりやすく説明し、市民にも公表しながら進めていってもらえたらと思う。いろんな不具合があったことに対して、つくるときに、こういう工場にしていく、といった説明があれば理解しやすい。
	空き缶の持ち去り対策を検討というふうに書いているが、適正負担に関する検討の中で、例えばごみ有料化の検討というのがある。どうしても有料化になると、不法投棄が店舗などに増加する懸念があるため、有料化を考える際はあきかん等の対策も同時に考えていただけたらと思う。
	3Rの中に優先順位がついていて、リサイクルの優先順位が低いという書かれ方で、結果の最初に2Rを頭出ししているというふうに解釈できる。今、中学校の教科書でも4Rまで載ってる時代なので、2Rでは不十分ではないかと。基本方向ごとの性格で基本方向1と2で3Rとされているので、3Rを全面的に出し、説明する時には発生抑制と再使用がメイン、その次にリサイクルといった段階的な記載の方がわかりやすい。
	環境教育については随所にちりばめられて出てくる。広い意味で「学ぶ」というのは、意識を向上させることが学びであり、啓発も学びであるのにも関わらず、環境教育は限定されたイメージで使われている印象を受ける。広い意味での学びと考えると、各施策を貫くものなので、それぞれの施策が縦にあるとすれば、横でつなげるようなものがみえると分かり易いと思う。
	（施策について）行政が市民に提案するというの是一方的な感じがする。行政・事業者・市民も一体になって協議をし、生活様式を一緒に作るようなスタンスでメッセージ発信をするべきではないか。基本計画は本来市民のためのものだから、身近にアピールをするという姿勢は大事なかなと思う。
	皆エコバックを持参しているがその反面、万引きが多発している。例えば、エコバックを持参する際は万引きをしにくいようなジッパーのついたもの、エコバッグを結んだ状態で買い物をするようにといった内容の写真等を用いて広報も検討していただきたい。
容器包装プラスチックの汚れの程度について、中途半端に洗わなくても大丈夫と啓発したところでしっかり浸透するものなのか。原則洗ってくださいというように言えばいいのではないかなと思う。	